続いて案内してくださったトイレは、とても広々としていて驚いた。布団さえあれば1人暮らしできそうな面積である。

「ここは車椅子の方のために設計されたトイレなんです。移乗には広さが必要ですし、身体を支える手すりも周囲に降ろせます」

バス・トイレも筆者の想像以上にさまざまな工夫が施されていて、利用者さんの安全確保の大切さがひしひしと伝わってくる。

とても広いトイレにビックリ

2階スタッフ、和田さんの登場

1階の取材を終え、引き続いては小規模多機能でスタッフをつとめる和田さんがバトンタッチで案内してくださることに。

和田さんに従って2階スペースを進んでいると、傍らに「当直室」と書かれた1室があったので訊いてみた。

当直もあるんですね。中を見せてもらってもいいですか?

「いいですけど…実は現在、当直は置いていなくて、代わりに物置きになってるんです」

えーっ、当直の代わりに物を置いているって、それ一番ダメなやつじゃないですか!? のっけから掲載NGのダークサイドを踏んでしまったのか。

「このホームを開設する直前までは当直者の勤務が法律で定められていたので、この部屋を設置したんです。それが、いざ開設する段になって法改定されて、当直者は不要ってことになりまして。夜間については夜勤者とオンコール待機で対応するので、当直室は使わなくなったんです」

なるほど、そういうことですかと胸をなでおろす。扉を開けて見せてくださった「当直室」の中は、たしかにモノであふれていた。

「収納場所として重宝しているので、結果的には非常に助かっているんですけどね」

スペースがあるとそのぶんモノが増えるのは、どこも同じのようだ。

元・当直室にたたずむ和田さん

小規模多機能のホール光景

続いて案内してくださったホールでは、利用者さんたちがスタッフと話をしたりしながら、ゆったりと過ごしておられた。

利用者の皆さんは日頃、どのように過ごされているんですか?

「ピアノと太極拳のボランティアさんがそれぞれ月4回来てくださって、みんなで歌をうたったり、体操をしたりしています。ボランティアさんの力は大きいですね。私たちスタッフもレクリエーションなど趣向をこらしています」

魔女、ベランダ

フロアを案内してもらっていると突然、女性スタッフさんから声をかけられた。

「取材? だったら和田さんの魔女とベランダも紹介しなくちゃ!」

えっ? 魔女とベランダって?? 筆者が戸惑っていると、和田さんが解説してくださった。

「私たち職員で年に数回、利用者の皆さんに向けて演劇をやっているんです。魔女っていうのは、そのときの僕の役柄でして」

せっかくだから魔女姿も披露してくださいよ~とお願いしてみたところ和田さん、若干照れながらも衣装を着てくださった。

いやはや、パワフルかつ活気ある職場で素晴らしいです(笑)。

ちなみにベランダというのは?

「こちらの屋外スペースになります」とお二人に案内されたのは、暖かい陽光が降りそそぐ、カフェのようなテーブル席だった。

ガーデニングされた藤の花も美しい、とても心落ち着く空間である。園芸が得意なスタッフが中心となって手入れされていて、毎年5月頃には色とりどりのバラも咲くそうだ。

カフェのようなベランダ

魔女役の和田さん
(傍らには素敵なピコ太郎の絵!)

ここは利用者さんとスタッフがお茶を片手に談笑するスペースになっているとのことで、きっと和気あいあいとした憩いと交流の場になっているのだろう。

さいごに

今回取材した「やまぶきの郷」。1階のグループホーム、2階の小規模多機能ともに、利用者の皆さんがいかに安全かつ快適に、そして共に楽しく過ごせるかを大切にしているスタッフさん達の姿が印象的だった。

これからも共に楽しく明るい生活の場をはぐくむスタッフとして、ますますのご活躍を期待しています!

(取材と原稿/臨床心理士・名倉)

利用者さんが活け花ボランティアの先生と活けられたお花

取材協力

和田 真彰(わだ まさあき)　牧野 哲也(まきの てつや)